

03 静建土技第 856 号

令和 3 年 7 月 21 日

株式会社東海造成 様

静岡市長 田 辺 信 宏
(建設局土木部技術政策課)



令和 3 年度 盛土材（路床材・路体材）の使用承諾について（通知）

令和 3 年 4 月 1 日立会申請の提出がありました別紙盛土材について、静岡市が定める「盛土材料取扱基準」で規定する品質規格等に適合するので通知します。

なお、盛土材料使用承諾有効期限は 1 年（通年）とし、下記有効期限とします。また、工事現場に搬入される盛土材の品質は常に安定し、かつ基準に適合するものでなければなりません。品質に変化が生じた場合や、採取場を変更する場合には速やかに土質試験を行い、改めて承諾を得るようにしてください。

記

1. 材料品目

路床材、路体材：切込碎石（0-40）

路体材：山土（0-300）

2. 有効期限

令和 3 年 7 月 27 日から令和 4 年 7 月 26 日まで

盛土材一覽表

別紙 A

静岡市技術政策課
令和3年5月11日調査

地区番号	会社名 土取場所在地	製品名称	路床材 路体材 の別	粒度		塑性指数 (PI)		変状土 C B R (%)			最大 粒径 (mm)	最適含水比 (%)		設計に 用いる C B R	備考
				路床材 4750μm	路体材 75μm/ 4750μm	路床材 路体材	路床材 路体材	平均	試料の C B R	自然含水比 (%)		絶対密度 (g/cm ³)			
216	株式会社 東海造成	切込砕石 (0-40)	路床材 路体材	46.9	11.3	NP	NP	93.7 ~ 55.1	72.7	55.7	37.5	5.1	2.258	20.0	
	静岡市駿河区丸子赤目ヶ谷地内			5.3	19.4	NP	NP	38.6	17.0	—	—	4.0	—		
216	株式会社 東海造成	山土 (0-300)	路体材	—	—	—	—	74.7 ~ 55.1	63.6	—	75.0	8.1	2.060	20.0	
	静岡市駿河区丸子赤目ヶ谷地内			—	19.4	—	26.7	19.6	7.3	—	—	7.2	2.47		

盛土材土質試験結果調査表

別紙 B

会社名：株式会社 東海造成

製品名称：切込砕石 (0-40)

静岡県 技術 政策 課

土取場所所在地：静岡県駿河区丸子赤目ヶ谷地内

地区 No. : 216

令和3年5月11日調査

項目	試料	令和2年7月			令和3年7月			平均	品質規格		備考
		1	2	3	4	5	6		路床材	路体材	
土質記号		GS-F	GS-F	GS-F	GWS	GWS	GWS	-	○	○	
粒度 4750 μm	%	44.3	53.3	48.1	45.3	46.7	43.6	46.9	25~100		
75 μm	"	5.8	6.6	5.4	4.5	4.8	4.4	5.3	0~25	*50以下	
塑性指数	LL/PL	NP/NP	NP/NP	NP/NP	NP/NP	NP/NP	NP/NP	-			
	PI	NP	NP	NP	NP	NP	NP	NP	10以下	30以下	
変状土 C B R	%	56.4	61.4	55.1	87.4	82.2	93.7	72.7	20以上	5以上	試料の C B R : 55.7 設計に用いる C B R : 20.0
最大粒径	mm	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	100以下	300以下	
自然含水比	%	3.8	4.0	3.6	4.2	4.1	4.4	4.0			
最適含水比	"	4.5	5.4	5.1	4.4	6.1	5.2	5.1			
最大乾燥密度 (ρ dmax)	g/cm ³	2.277	2.279	2.270	2.240	2.246	2.233	2.258			E法にて実施
ρ dmax × 0.95	"	2.163	2.165	2.157	2.128	2.134	2.121	2.145			
ρ dmax × 0.90	"	2.049	2.051	2.043	2.016	2.021	2.010	2.032			
粗骨材の絶対密度	"	-	-	-	-	-	-	-			

説明

1. 土質試験結果をこの調査表に整理して調査を行う。
2. *50以下とは4750 μmフルイ通過試料に占める75 μmフルイ通過分の割合 (%)
3. 変状土 C B R のデーター調査
 - I. データーの範囲：最大値 (MAX) ~ 最小値 (MIN)
 - II. 較差：MAX ~ MIN
 - III. 平均：X = Σ Xi / N
 - IV. 標準偏差：√V = √((Σ (Xi - X)²) / (N - 1))
 - V. 試料の C B R : X - √V
4. 設計に用いる C B R
 - I. 路床材については上限 20.0% とする
 - II. 路体材については、試料の C B R 値が 20% 以下の場合はその値を採用し 20% 以上の場合は 20.0% とする

路体材：5 以下は不適
路床材：20 以下の場合には路体材としての使用のみ可能